

また、国体に出場する選手たちは、そのほとんどが幼い頃からそのスポーツにまい進してきた一流選手です。そんな素晴らしい人たちと交流することで、私たち自身にとつても何か得られるものがあるのではないのでしょうか。

地域の皆さんと「民泊やつてみようか」そんな話になったときには、国体推進室にご連絡ください。

毎月この広報誌に連載している「みきゃん通信」では、今後も民泊の詳しい内容や民泊経験者の生の声を紹介していきます。ぜひ参考にしてください。

### 一步、踏み出す勇気を

「えひめ国体」という大きな大会で、「民泊」という貴重な体験ができるのは、



「今」しかないかもしれないかもしれません。

「大変そう」「ちゃんとはできるんやろか」不安はたくさんあると思います。そして、それは選手として鬼北町を訪れる人たちも同じ気持ちです。

大きな大会を前に、不安と緊張を抱えた選手の人たちを、そばで励ましてあげませんか。ともに喜び、ともに泣き、この鬼北町で、最高の思い出を選手とともに作ってみませんか。きっと、その経験があなたにとつて、かけがえのない体験となることでしょう。

もし、ほんの少しでも興味を持ってもらえたなら、あと一步踏み出す勇気を持つてください。

「民泊」してみませんか。

「えひめ国体」の成功には、皆さんの協力が必要なのです。

※文章内に掲載している写真はこれまで他県で行われた民泊の様子です。

現在、国体推進室では、  
皆さんに少しでも「民泊」について理解してもらおうと  
各地区での説明会を行っています。

今回は、国体推進室の室長に「民泊」の魅力について聞きました。

### Interview

### 調理班で

### 新たな地域活力を！

昔は、各地域で婦人会などの組織があり、さまざまな催しがあると、会員が共同で腕をふるい、おいしい料理を提供していたものでした。その作業の中で、地域に嫁いだ若いお嫁さんと先輩のお母さん方との出会いがあり、会話があり、地域の実情を知り、気づかないうちに地域の一員として溶け込んでいったような例がたくさんあると思います。

核家族化・高齢化が進む現在、子育て世代のお母さんも働いている方が多く、時代の波とでも言うべきでしょうか、地域の集会所の炊事場でいろいろな会話をする機会がずいぶん少なく

なったのではないのでしょうか。現在、私が住んでいる地域で老若男女が集うのは、年に1度、地域運動会の反省会、だけのような気がしません。

国体の民泊事業では、調理班(朝・夕食を作る班)の役割が重要な意味を持ちます。選手たちの料理を作ることはもちろん大切なことですが、地域の世代を超えた女性パワーを結集して、一つのことを成し遂げた後に、「地域の力」として何かが残る、何かが生まれることを期待しています。

国体が終わったその後に、鬼北町で民泊を実施した本当の意味・成果を生み出したいと願いながら、説明会に臨んでいます。  
※調理班は男性も大歓迎です！



### 兵頭 誠亀

ひょうどう せいき

鬼北町教育委員会  
生涯教育課長兼  
国体推進室長